

(その139) 「保育園に入れない」(2017.4 発行)

3人の方から立て続けに保育園入園の相談を頂きました。

6時間のパート勤務のAさん。「夫のダブルワークを支え、2才の育児をしつつ、出産を控えている」というBさん。

障がいのあるお子さんを持つCさんです。

どの方も相当大変な実態で困っておられるのですが、認可保育園はいま「フルタイムで働いている人でもなかなか入れない」という状況で、簡単にはいきません。

それぞれのケースを役所の担当の方と相談して、Bさんについては「出産前後は一時保育で対応する」ということと、夫さんの働き方の問題や、家賃のこと、税金の払い方など引き続き相談していくことになっています。

Aさんは役所と認可外保育園などの入所相談などしか打つ手がないのが現状ですが、そうすると保育費用が高額になってしまいます。

Cさんについてはご本人の努力と市との相談の結果、ようやく入園の可能性が開けてきたという状況です。保育園が足りず、必要な人に届いていないのが一番の原因です。

「認可保育園を増やして欲しい」は切実な声

この4月の認可保育所の入所を申し込んだ人は10200人(10年前の約2倍)。入所出来なかった保留児童数は3551人にのぼります(昨年より544人増)。全市的にまた区内でも大規模マンションの建設ラッシュで人口増加が続いているためです。小田・京町などせっかく区内にあった県有地なども、みすみす民間マンションにしてしまいました。こうした市政を改めて、市民の暮らしに必要な施設を増やすためにみなさんのご協力をお願いします。

私も一人ひとりのご相談に答えつつ、政治を変えるためにも全力をつくします。

くらしの相談センター

所長代理 片柳すすむ